

仕事楽しい人 F i l e . 4 5 : 小野田恵洋さん (塾講師)



◆生徒に「先生ごめんなさい」と言わせない塾の先生になる！

今回ご紹介する仕事楽しい人の小野田さんは、  
福島県の南相馬市で生まれ育ち、正月にTV放映される大学ラグビーを観戦して、  
紫紺のユニフォームに憧れ、明治大学に進学しました。

小野田さんは、新聞奨学生。

父親から、大学に進学させるだけの資金は出せないと言われて、  
であればこの手があると選択したそうです。

大学を卒業して、小野田さんが選んだ職業は塾の講師。

教育実習をした際に、子どもたちに勉強を教える楽しさに目覚めました。

そして、在学中にアルバイトで塾の講師と家庭教師を始めます。

塾の講師は一見時給が高いようですが、授業の準備や会議への参加時間には時給が発生しないため、拘束時間を含めて時給を計算し直すと、コンビニよりも低くなるようです。  
これでは割に合わないと辞めてしまう人も多いとのことですが、小野田さんは、まったく苦になりませんでした。

むしろ、塾生の学力を向上させるために、時間を忘れて（時給の有り無しなど考えずに）  
準備に没頭しました。

そんな充実した講師生活を送っている中で受験シーズンが到来。

合格間違いなしと太鼓判を押されていた第一志望に、ある女子生徒が落ちてしまいました。

原因は、小野田さんが担当していた教科の社会科が出来なかったことでした。

小野田さんが、彼女にどんな風に声をかけたらいいかと迷う暇もなく、

この生徒から次のように言われました。

「先生、落ちて、ごめんなさい」

小野田さんに、この言葉が胸に突き刺さりました。

そして、小野田さんは、

「生徒に“ごめんなさい”と言わせない塾の講師になる」

と決意します。

塾の講師を生涯の職業に選択した小野田さんは、東京の塾に数年間勤務した後、震災前に、南相馬に戻り塾講師を続けていました。

そして、震災に遭遇。

勤務先の塾も規模の縮小が余儀なくされ、経営に困窮し出します。

小野田さんは、だったら自分で塾を経営しよう一念発起し、

“魁！おの田志塾”

を設立しました。

小野田さんは、塾生のやる気を引き出すために“可視化”に拘っています。

学校で実施される定期テストの結果は、全教科報告させて記録します。

このデータを次のテストの前に見直して、点数が良かった教科や良くなかった教科について、何が原因だったかと考えさせます。

すると生徒は前回の反省点を思い出して、今回のテストへの対策を練りだします。

また、学校のテストは点数が上下するので、絶対的な学力の証として、

漢字検定、英語検定、数学検定にチャレンジさせています。

検定では、合格した級は絶対的なもので、以降、級が下がりにません。

そして、学力にも直結しているので、生徒の学力を可視化させるだけにとどまらず、自信もつけさせられます。

その他、生徒に“そこまでやるんだ”と思わせることをして、限界突破をはかる習慣を身に付けさせてもいます。

例えば、定期テストの前になると、塾が休校となる日曜日にも生徒を塾に来させます。

テスト前に集中して勉強をするのは当たり前という考え方を定着させるために、

塾に入校したと同時に義務化しています。

小野田さんが塾講師として工夫を凝らしている事柄は、まだまだありますが、それは、以下に記載した

“何事にも夢中に取り組む小野田さんの生き様が子どもたちのDNAに入る！”  
にご案内します。

◆小野田さんが大切にするキーワード

人事を尽くして天命を待つ

入学試験も、やるべきことをやれるだけやったら、あとはもうジタバタしてもしようがない、という考え方で生徒に接しています。

◆小野田さんのパワー〇〇

妻に褒められること

生徒の成績が上がって喜ぶ顔を見ると気分が高揚しますが、妻から、「あの子の成績が上がってよかったわね」と言われると、生徒のお母さんにも喜んでもらえたようで嬉しくなります。

◆小野田さんのコツコツ

ビックリマンシール集め

自分が子どものころはお小遣いがなくて買えなかったのですが、震災以降に買い集め始めました。レアものも含めて、3,000枚以上持っています。

◆何事にも夢中に取り組む小野田さんの生き様が子どもたちのDNAに入る！

小野田さんには、子どもたちに受験勉強の仕方を教える先生というより、夢中になって人生を歩む楽しさを教えるお兄さんみたいな印象を、私は持ちました。

それは、小野田さんの新聞奨学生時代の話聞いてでした。

小野田さんは、大学を7年間通いました。

それは、大学4年生になるまで、新聞販売店の仕事にのめり込んでいたから。

どんな仕事か？

答えは、新聞を取ってくれる顧客の開拓営業。

世間一般には、個人宅への飛び込みを繰り返す、きつくつらい仕事と言われているものです。

夕刊を配り終える17時以降の2時間くらいが、新規開拓の時間帯なのだそうです。

小野田さんに、

「1日に何件くらい訪問したのですか？」と尋ねると

小野田さんは、

「件数ですか？わかりませんが、とにかく、2時間で回れるだけ訪問しました。」

そして、私が、

「新規開拓ってなかなか成果が上がらず大変だと言われていますが、小野田さんは、どうだったんですか？」と聞くと、

「ほとんど断られました」とケロッと答えます。

小野田さんは、新規開拓営業を始めたころは、あまりにも成果が出ないので、

「こんなのでいいのかな」と思っていたそうです。

しかし、先輩から

『契約は取れないのが当然！』

『断られてからが営業だ！』

『契約が取れたら儲けものと思え！』

とアドバイスされて、なるほどと合点がいき、それからは、腹を据えて営業したのだそうです。

「いや～、あの時は、面白かったです。販売店の社長から『この仕事ができる奴は、何でもできる』と言われましたが、お蔭で度胸がつき、まったくその通りだと思えるようになりました。」

この小野田さんの体験談を聞いて、読者のみなさんはどんな印象を持ちますか？

小野田さんは大学4年まで新聞販売の仕事に没入するあまり、卒業単位を全く満たしていない現実に直面しました。

そして、留年するならしっかり勉強しようと奮い立ちます。

「せっかく勉強するなら、何か資格を取ろう！」

「だったら教員資格だ！！」

こんな流れで履修科目を選定したことがきっかけで、教育への道が切り開かれました。

そして、塾でのアルバイトが始まります。

先にも記した通り、この時にも拘束時間に対する時給の割合など気にせず、仕事に没頭しました。

小野田さんのこの没入力は、今では次のように発揮されています。

塾の授業が始まる前に、小学4年生の女の子数人が、教室の入り口に置いてある漫画の「進撃の巨人」を立ったまま微動だにせず読みふけている姿を見た小野田さんは、「漫画の力はすごい！これだけ子どもの気持ちを捕まえられるのなら、漫画ネタも授業に取り入れよう」と行動に移します。

小野田さんの生徒の変化を逃さない観察力は、随所に発揮されています。

「〇〇、読んでいる漫画本変わったんだな」

「△△、髪切ったんだ」

生徒には、毎日、必ず名前を呼んでから声をかけるそうです。

さらに、塾の教室だけでは、生徒の様子は限定的にしかわからないので、学校で行われている行事（運動会や合唱コンクール）にはできるだけ参加し、生徒の学校での姿を見に行っています。

小野田さんに夢を尋ねると、

「自分の命が尽きるまで、塾の講師を務めてたいです。

そして、教え子たちが成長して社会に羽ばたき、将来は、スティーブジョブズのように世界を揺るがす経営者があらわれ、その教え子がインタビューされた時に『南相馬出身です』なんて言ってくれて、我が故郷の地名を別の意味で世界に知らしめてくれたらな、なんて思っています」

夢中になって人生を歩む楽しさを実感している小野田さんの教え子たちから、世界をまたにかけて何かをしでかす逸材が現れるだろうと（そうなって欲しいとの願いも込めて）、胸のときめきを感じながらインタビューを終えました。

#### ◆小野田さんのプロフィール

職業：塾講師

所属：魁！おの田志塾（福島県南相馬市原町区）

#### ◆塾講師とは？

（13歳からのハローワーク公式サイトに掲載されている解説を抜粋しました）

国公立の学校が「ゆとり教育」を導入し、人間形成に重点をおくようになったため、その分、親たちの受験勉強への期待は進学塾に向く傾向にある。塾講師は今までの受験の出題傾向を分析し、能率よく生徒に受験対策を伝授していく。また生徒の学力に応じて進学のアドバイスをする。子供たちとの触れ合いに喜びを見いだすこともあるが、本分は進学のエキスパート。入学の難しい学校に、その塾から何人進学させられたかが評価になる。少

子化で子供の数が減っているのに、生徒の獲得も大切な仕事。講師自ら電話で勧誘したり、夏休みの授業にさまざまなコースをつくるなど、生徒勧誘の工夫をしている。ふつう学校が終わってから塾の授業が始まるため、21時過ぎまで教壇に立ち、それから翌日の授業の準備をする。日中を営業にあてている人が多いようだ。就職には大学を卒業していることが基本条件で、教員免許を持っているとプラスになる。進学を指導する塾講師のほか、学校教育についていけない子供たちに補習をする塾講師もいる。

◆塾講師に求められる能力

突破力：直面した課題に真正面から挑み乗り越える力

観察力：人の行動をつぶさに観察し、変化を見出す力

好奇心：人が関心を持つことに何でも食いつく力

柔軟性：年齢などの壁に影響されない思考力

愛情力：子どもたちに、愛を持って教育する力

没入力：何事にも我を忘れて遮二無二取り組む力